

第1展示室：たたら製鉄とは？

第1展示室では、たたら製鉄の概要を紹介している。生産サイクルの説明、この地域の製鉄所で使われていた道具、そこで生産された鉄と鋼鉄のサンプル、19世紀後半の炉の実物大の模型などが展示されている。

たたら製鉄は日本独自の製法であり、鉄鉱石と石炭(または他の再生不可能な燃料源)ではなく砂鉄と木炭を使用する点で、現代の他の製鉄法と異なっている。道具や設備は変化したが、たたら製鉄の基本原理は6世紀後半から変化していない。

製鉄業は、良質な砂鉄が豊富に採れた山間部の中国地方（広島県、岡山県、島根県、鳥取県、山口県）で栄えた。職人たちがより効率的な製錬技術を開発するにつれて、小規模で一時的な製錬から、村全体で運営する大規模で恒久的な製錬へと変わっていった。こうして蓄積されたノウハウにより、1900年代初頭にはこの地域は国内最大の鉄鋼生産地となり、現代の鉄鋼業の基礎を築いた。